

## 令和6年度事業計画書

我が国経済は、コロナ禍の3年間を乗り越えて改善しつつあり、30年ぶりとなる高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、経済には前向きな動きが見られる。他方、賃金上昇は輸入価格の上昇を起点とする物価上昇に追いついておらず、個人消費や設備投資は依然として力強さを欠いている。また、海外景気の下振れリスクや物価動向に関する不確実性が存在すること、令和6年能登半島地震の影響、金融資本市場の変動の影響等には十分注意する必要がある。

豆類をめぐる情勢については、北海道産小豆は令和5年の記録的猛暑等により不作となった一方、小豆、いんげん等の需要は新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の人流回復により土産物需要が回復途上にあり、さらなる需要回復に向けた取組を引き続き推進する必要がある。

貿易面では、現在の日本の豆類の主要輸入先となっている中国、カナダ、米国、ミャンマー等での豆類の生産流通状況について、国際穀物相場等の諸情勢が及ぼす影響に注視していく必要がある。

流通面では、令和4年4月に全ての加工食品に対する原料原産地表示が義務化されており、食品原料の調達先に関する業界の動向を引き続き注視していく必要がある。

また、農業政策面では、食料安全保障の確保を基本理念に位置付け、農産物輸入相手国の多様化等安定的な輸入の確保を基本的施策に位置付けることなどを内容とする食料・農業・農村基本法の改正法案が国会に提出されている。

さらに、公益法人制度について、財務規律の柔軟化・明確化、行政手続の簡素化・合理化、法人の透明性向上や自律的なガバナンスの充実等を内容とする改正法案が国会に提出されている。

令和6年度においては、これらの動きに留意しつつ、当協会の事業目的に即して、良品質な国産豆の安定供給に資する豆類に関する学術の振興（公1）及び健康に良い豆についての消費啓発を通じた食育の推進（公2）を実施する。その際、公募事業については、第三者で構成される審査委員会において選定された採択候補事業及び課題を基に助成事業を実施する。また、当協会事業を実施するために必要な事業費の確保を図ることとし、その一部として、令和5年度に積み立てた豆類調査研究等引当資産（特定費用準備資金）を取り崩し、公1事業の事業費に充当する。なお、管理費については一層の効率化を図る。さらに、当協会の財産運用については、財

産の保有目的に即した適切な運用に努める。

## 1 豆類に関する学術の振興（公1）

### （1）調査研究及び試験研究への助成（公募）

令和5年末に公募を実施した結果、別添のとおり、新規課題として、調査研究6課題、試験研究3課題を採択する。

### （2）豆類事情調査

#### ①基礎事情の調査

豆類主産地の北海道において生産・流通・消費・研究等の関係者が参集して豆類産地懇談会を開催する。

豆類の認知度や豆類の具体的な喫食動向把握を内容とする基礎調査を継続的に実施することとし、その第1回目の調査を実施する。

これまでの調査研究・試験研究の成果の周知を図るため、成果報告会を開催する。

#### ②生産流通消費動向の調査

「和菓子の登録無形文化財化」の認知度を高めるための実証調査を地方都市で実施するとともに、農業労働力不足に対処した豆類生産の省力化に資するための調査を引き続き実施する。

#### ③豆類の品質・安全性確保の調査

海外から輸入される豆類の安全性を確保するため残留農薬等を調査するとともに、豆類の品質向上に資する加工技術について調査する。

#### ④海外豆類事情の調査

調査団派遣の候補国を検討中。

### （3）試験研究推進

産業界のニーズに対応した新品種開発を短期間で効率的に行うための革新的育種システム構築実証研究及び小豆コンバイン収穫適性品種導入の加速化を図るための小豆・菜豆のコンバイン収穫に関する効率化実証研究を引き続き実施する。

### （4）技術普及事業及び豆類生産対策事業（公募）

①技術普及事業については、公募の結果、別添のとおり、豆類経営改善共励会の開催、作付指標面積に即して良品質豆類の計画的な安定生産を図るための良品質豆類生産安定指導事業等に対して助成を行うとともに、北海道の農業者及び農業関係者を対象に豆作り講習会を開催する。

②豆類生産対策事業については、公募の結果、別添のとおり、北海道における豆類原原種、原種、種子の増殖、豆類新品種の開発普及等の4事業に助成する。

## 2 豆を通じた食育の推進（公2）

### （1）豆類消費啓発事業への助成（公募）

令和5年末に公募を実施した結果、別添のとおり、9課題を採択する。

### （2）豆類消費啓発事業の推進

#### ①豆を使った食育の推進

豆を使った食育活動を推進するため、栄養教諭等学校栄養士を対象とした豆料理講習会・親子豆料理教室を開催する。

また、小学生を対象とする学習読本「おまめのはなし」、指導者向け解説書の内容を更新し、豆標本セットも含め利用希望のある小学校に配布する。

さらに、幼稚園児を対象とする豆に関する絵本、紙芝居は、新作を制作し、従来から制作している絵本、紙芝居、豆の標本、栽培セット等とともに、利用希望のある幼稚園等に配布する。

#### ②豆類消費啓発資料の制作・配布

一般消費者、食品・栄養・調理関係の学生等の豆類に関する理解を増進し、豆による食育を推進するため、豆料理の作り方、豆の栄養と健康等に関する各種冊子を制作し、利用希望のある大学、専門学校、機関、団体、個人等に配布する。

#### ③豆類消費啓発情報の提供

多くの一般消費者に対し、豆類の有する優れた栄養、健康との関わり、豆類を使った手軽な料理等の情報について、SNSの活用、協会ホームページへの掲載、料理雑誌、料理関係WEBサイト等への広告記事の出稿等多様な媒体を活用して提供する。

#### ④豆類消費啓発イベントの推進

「豆の日」（10月13日）と豆月間（10月）を中心とした豆類消費啓発イベントの開催、「世界マメの日」（2月10日）の普及啓発等を通じ、豆類の栄養や魅力を

一般消費者に普及する取組を推進する。

### (3) 情報資料の提供等

豆類に関する最近の情報を発信するため、情報誌の刊行、協会ホームページの見直しを行うとともに、必要な情報資料の収集、整備等を行う。ホームページの見直しに当たっては、障害者差別解消法を踏まえて対応する。

令和7年3月には、当協会の前身の(財)日本豆類基金協会の創立から60年を迎えることから、これまでの記録を編纂する。

## 3 公益法人改革への対応

令和7年4月からの施行に向けて検討が行われている公益法人改革について、内閣府のガイドライン等を踏まえて適切に対応する。

(別添)

令和6年度豆類振興事業の新規採択候補事業・課題一覧

[調査研究事業費(雑豆需要促進研究)]

番号	応募研究課題名	研究代表者
1	いんげんまめの新規加工食品調製のための研究	愛国学園短期大学 教授 江木伸子
2	うつ病に対するあずき由来ポリフェノールの作用分析	名寄市立大学 教授 山本達朗
3	氷菓への小豆煮汁の添加により、食後血糖の上昇に及ぼす影響に関する研究	摂南大学 教授 山田徳広
4	発酵小豆摂取が食後血糖値上昇に及ぼす影響 - 発酵小豆のセカンドミール効果について -	三重短期大学 講師 杉野香江
5	若者にとって和菓子とは一餡を使った菓子の「オノマトペ」を活用したコミュニケーションの検討に向けてー	公立大学法人宮城大学 助教 滝口沙也加
6	あずきの皮に由来する新規オリゴ糖の探索	静岡県立大学 助教 本田千尋

[試験研究事業費]

番号	応募研究課題名	研究代表者
1	ダイズシストセンチュウ抵抗性を有する小豆有望系統の育成強化(R6-8)	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 十勝農業試験場 研究主任 長澤秀高
2	インゲンマメモザイクウイルス高度抵抗性を持つ大納言小豆の育種母本の作出(R6-8)	京都府農林水産技術センター生物資源研究センター 主任研究員 鴨志田徹也
3	北海道の小豆におけるマメノメイガ緊急防除対策(R6-7)	地方独立行政法人北海道立総合研究機構 道南農業試験場 主査(病虫) 青木元彦

[技術普及事業費]

番号	応募事業名	応募団体
1	全国豆類経営改善共励会	株式会社 J A 新聞連
2	大豆新技術等普及展開事業	一般社団法人全国農業改良普及支援協会
3	国産大豆の需給・品質に関する情報の 収集・提供事業	公益財団法人日本特産農産物協会
4	良品質豆類生産安定指導事業	北海道農業協同組合中央会

[豆類生産対策事業費]

番号	応募事業名	応募団体
1	豆類優良種子増殖事業	公益財団法人日本特産農作物種苗協会
2	雑豆原種等生産事業	十勝農業協同組合連合会
3	雑豆原原種及び原種生産事業	ホクレン農業協同組合連合会
4	豆新品種の開発普及事業	北海道豆類種子対策連絡協議会

[豆類消費啓発事業費]

番号	応募事業名	応募団体
1	豆の日普及啓発事業	一般社団法人全国豆類振興会
2	豆類食品消費啓発推進事業	全国豆類食品消費啓発推進協議会
3	菓子製造技術高度化事業	全国菓子工業組合連合会
4	乾燥豆等消費啓発推進事業	全国穀物商協同組合連合会
5	餡の消費啓発推進事業	日本製餡協同組合連合会
6	北海道豆類流通改善・消費啓発推進事 業	北海道豆類振興会
7	和菓子消費啓発推進事業	和菓子消費啓発推進協議会
8	パン製品における小豆利用促進事業	パン食普及協議会
9	関西豆類流通改善・消費啓発推進事業	関西輸入雑豆振興協議会